

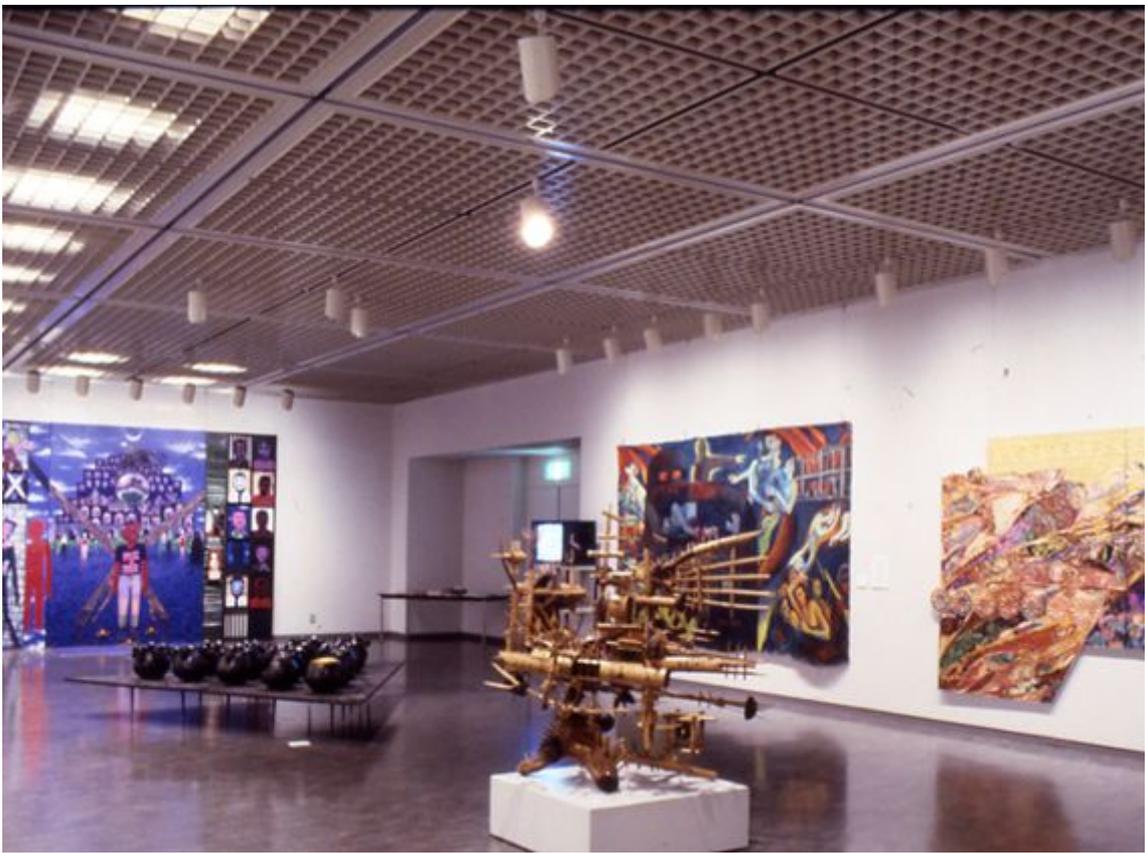
美術前線北上中：東南アジアのニューアート

崔敬華

本展は1992年、国際交流基金アセアン文化センター、東京都、福岡市美術館、広島市現代美術館等の主催で、ASEAN 6カ国（ブルネイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ）の作家17名を取り上げ、東南アジアの現代美術に特化した日本初の展覧会として東京、福岡、広島、大阪の4都市を巡回した。キュレーターとして参加したのは、それまでにインド・トリエンナーレやバンガラデシュ・ビエンナーレに関わった批評家中村英樹、「アジア美術展」を継続的に開催していた福岡市美術館の後小路雅弘、第40回・第41回ヴェネチア・ビエンナーレの日本館コミッショナー等を務めた批評家のたにあらたと広島市現代美術館の迫中陽子氏の4名。

展示は「めざましい経済成長を背景に発展し続けるアセアン諸国の変貌」^[1]を遂げる社会において、西欧モダニズムにも、その対抗軸としてのナショナリズムや伝統にも自らを還元することなく、あるいはそれらを自らの土壌として否定することなく、新たな切り口を探求する作家を取り上げ、日本の観客の「西洋美術寄りの美術観と固定したアジア美術観に、新たな視点を与える」^[2]ことを目的とした。展示作品にはインスタレーション、立体、レリーフ、そしてパフォーマンスを取り入れた映像なども多く含まれた。作品で使われている素材、メディア、構造やシンボルに関する考察が述べられたキュレーターの論考からは、彼らが東南アジアの現代美術に独自の精神構造（中村）や、自律的展開（後小路）、同時代的な批判精神（たに）を希求していたことが読み取れる。

[1][2]「ごあいさつ」『美術前線北上中：東南アジアのニューアート』展覧会図録、国際交流基金、1992年、p.5



(上記2点) 「美術前線北上中：東南アジアのニューアート」会場風景、東京芸術劇場展示ギャラリー、1992年



(上記2点) 「美術前線北上中：東南アジアのニューアート」会場風景、福岡市美術館、1992年 写真：後小路雅弘



「美術前線北上中：東南アジアのニュー・アート」東京展ポスター、1992年
 デザイン：美術出版デザインセンター

関連リンク

- 国際交流基金アジア美術アーカイブ「美術前線北上中」
https://www.jpfa.go.jp/j/publish/asia_exhibition_history/11_92_southeast.html
- 日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブ
http://www.oralarthistory.org/archives/nakamura_hideki/interview_01.php